

3. 地上に与える影響

地下構造の構築方法としては、地中を掘り進む工法（シールド工法）と、地上から掘り下げる工法（開削工法）があります。シールド工法を可能な限り採用した場合でも、連絡路が本線から分岐する付近から開削工法で幅を拡げ、地上から掘り下げて工事する必要があります。

また、連絡路が半地下、地表になる区間では地上に道路を構築することになります。

< 世田谷通りインターチェンジ >

< 国道 20 号インターチェンジ >

< 東八道路インターチェンジ >

< 青梅街道インターチェンジ >

< 目白通りインターチェンジ >

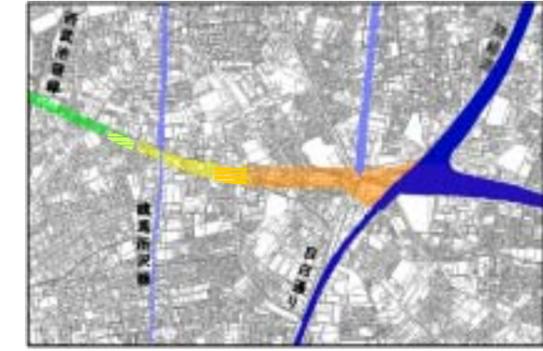
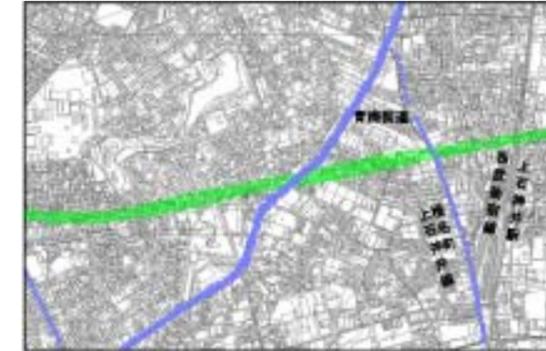
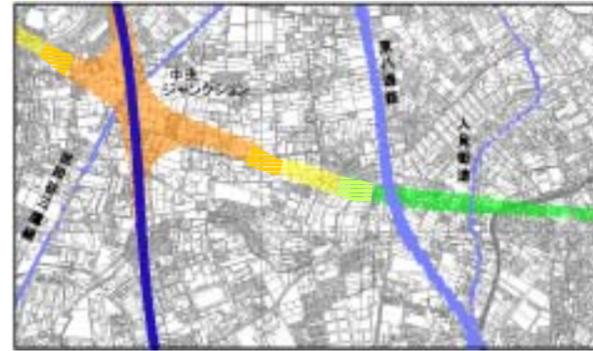
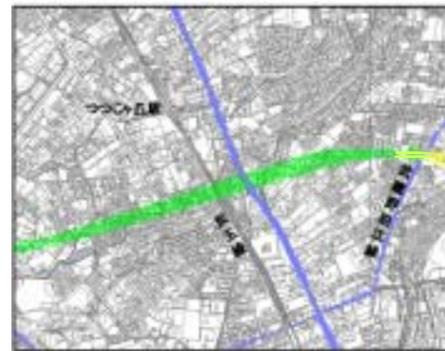
ない場合

ない場合

ない場合

ない場合

ない場合



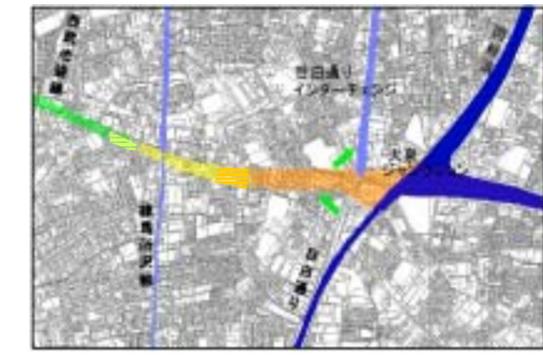
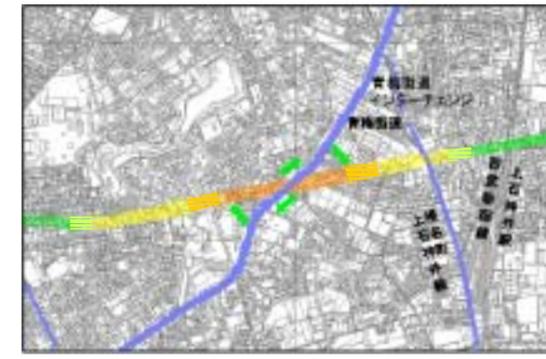
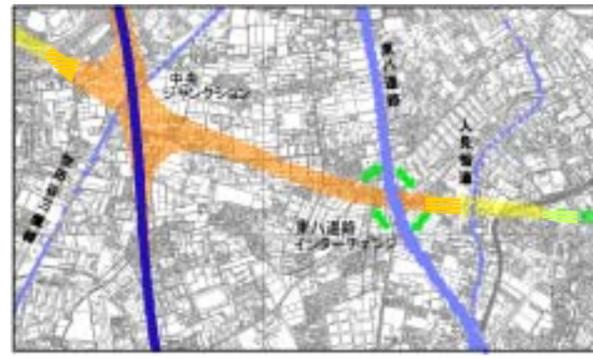
ある場合

ある場合

ある場合

ある場合

ある場合



(S=1/25,000)

凡 例	
	開削ボックス
	開削ボックス(埋め戻し部)
	シールドトンネル

- ・開削ボックス(埋め戻し部)の地上部については、住宅などの土地利用も可能です。
- ・シールドトンネルの地上部については、現状の市街地を維持することも可能です。

・この図は、シールド構造を可能な限り採用した場合の概略図です。